

第122期 中間報告書

2018年4月1日～2018年9月30日



Hitachi先端情報技術センター（略称：A.I./TEC）



技術力の強化とグループ力の 発揮で、変革と成長へ挑戦します。

株主の皆様には、平素より格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。ここに、「第122期 中間報告書」をお届けし、事業活動の概況をご報告いたします。

取締役会長兼社長 谷所 敬

当上半期の業績について

当上半期の連結業績については、受注高1,855億円、売上高1,532億円、営業損失84億円、経常損失86億円、親会社株主に帰属する四半期純損失76億円となりました。特に、収益について見通しを大きく下回る状況に至りましたことについては、深くお詫び申し上げます。

主な要因は、海外子会社（Hitachi Zosen Inova社）のごみ焼却発電プラント建設工事において、工程の遅延とコストアップが発生し、採算が悪化したことによるものです。

同社の経営体制を刷新するとともに、現在、グループとして、受注前のリスク評価、工事開始前のコスト検討、現場管理能力の強化などプロジェクト遂行体制の強化を図ったことから、収束方向にあります。また、AOM（アフターサービス、運転、メンテナンス）事業を拡大することにより、収益力の向上にも努めております。

以上のような状況を踏まえ、中間配当については実施を見送ることとしましたので、ご了解いただきますよう、よろしく願いいたします。

今後の取組みについて

当社グループのIoTやAIの開発拠点となり、AOM事業の効率化を目指す「Hitachi先端情報技術センター（略称：A.I./

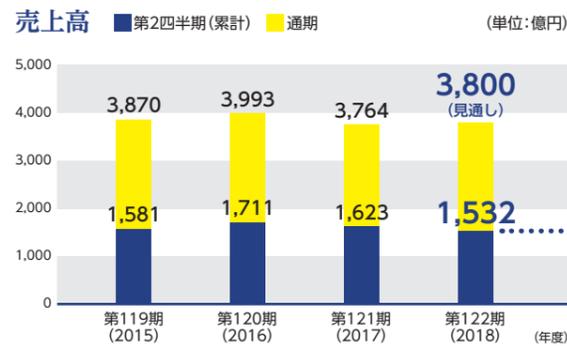
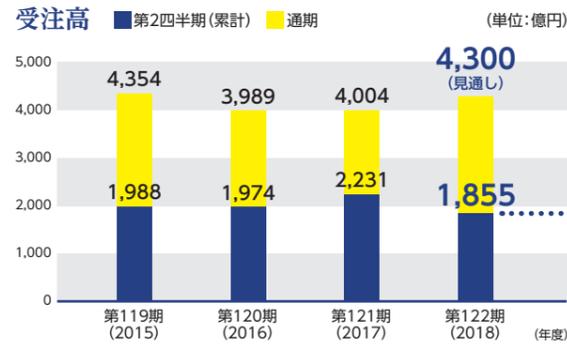
TEC）」が大阪南港本社ビル横に完成し、10月から業務をスタートしました。今後、本施設を基点にICTを活用した遠隔監視、運転支援など全製品を対象としてサービス事業をグローバルに拡大するとともに、最新の基幹業務システムを導入して、非効率な事業運営・組織運営の見直し等、徹底的なムダの排除に取り組むことで、生産性の向上を一層推進します。

また同時に、事業の選択と集中を推進するとともに、事業領域別にグループ事業戦略を策定・実行することでグループ総合力を高め、事業の拡大、収益力の向上を図ります。

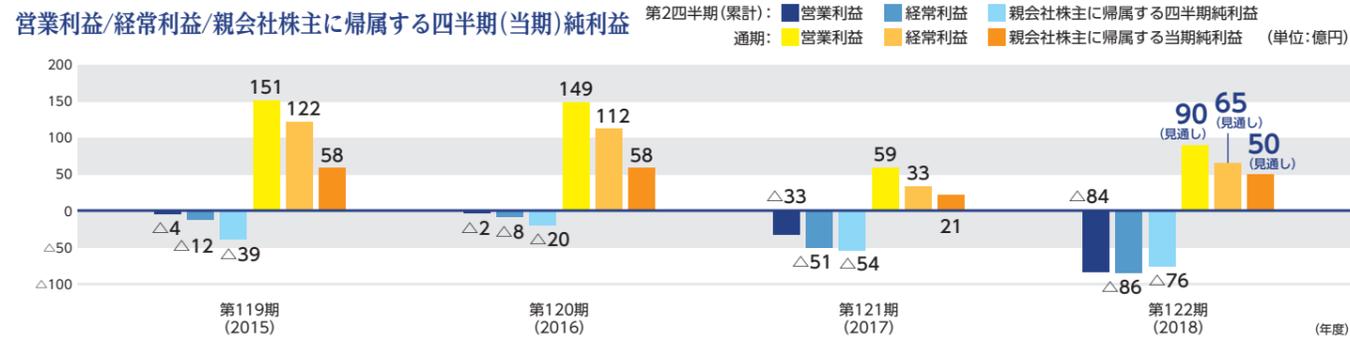
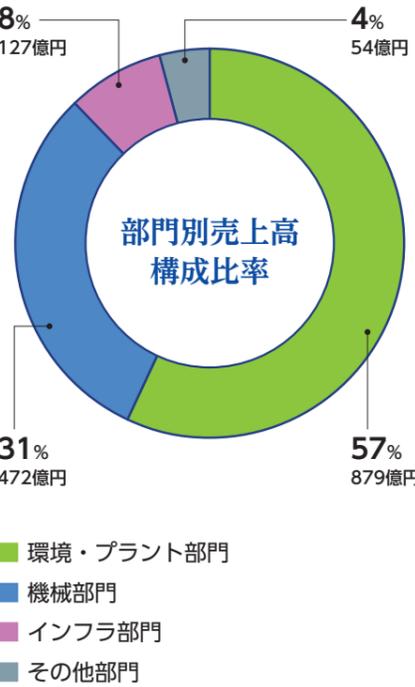
通期の業績見通しについて

受注高、売上高は期初見通しのおり、それぞれ4,300億円、3,800億円を見込んでいます。利益面では、海外子会社における厳しい収益状況に鑑み、営業利益を90億円に、経常利益を65億円にそれぞれ下方修正しましたが、親会社株主に帰属する当期純利益については期初見通しのおり50億円としています。今回見直した計画数値については確実に達成すべく、グループの総力を結集し取り組んでまいりますので、株主の皆様におかれましては、今後とも変わらぬご支援を賜りますようお願い申し上げます。

決算の概況



部門別の事業概況



四半期連結財務諸表

【ご参考】 四半期連結財務諸表の記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。

四半期連結貸借対照表(要旨)

(2018年9月30日現在)

科目	金額(百万円)	科目	金額(百万円)
資産の部	380,134	負債の部	272,037
流動資産	203,206	流動負債	174,663
固定資産	176,803	固定負債	97,373
有形固定資産	119,365	純資産の部	108,097
無形固定資産	11,488	株主資本	104,680
投資その他の資産	45,948	その他の包括利益累計額	2,578
繰延資産	125	非支配株主持分	838
資産合計	380,134	負債・純資産合計	380,134

環境・プラント部門

前第2四半期 受注高: 1,580億円 ▶ 当第2四半期 1,234億円(346億円減)
 前第2四半期 売上高: 1,010億円 ▶ 当第2四半期 879億円(131億円減)

受注高は、高崎市向け高浜クリーンセンター建替プラント設備工事や環境省向け浪江町対策地域内廃棄物処理業務(減容化処理)、会津若松地方組合向け汚泥再生処理センター整備・運営事業等を受注したものの、海外子会社での受注時期のずれ等により前年同期を下回る1,234億円となりました。

売上高は、八代市向け八代市環境センター建設工事、仙台市向け石積埋立処分場浸出水処理施設建設工事等を完工したものの、海外プラント工事の減少等により前年同期を下回る879億円となりました。

営業利益は、海外子会社でのごみ焼却発電施設建設工事の収益悪化の影響等により前年同期を下回る△81億円となりました。

八代市環境センター

機械部門

前第2四半期 受注高: 441億円 ▶ 当第2四半期 425億円(16億円減)
 前第2四半期 売上高: 448億円 ▶ 当第2四半期 472億円(24億円増)

受注高は、自動車会社向け各種プレス機械の受注増加があったものの、船用原動機、プロセス機器の案件が少なかったことにより、前年同期を下回る425億円となりました。

売上高は、国内外の造船所向けSCRシステム搭載型船用原動機、中東向け石油化学プラント用プロセス機器等を売り上げました。プロセス機器が牽引し、前年同期を上回る472億円となりました。

営業利益は、プロセス機器等では前年同期からほぼ横ばいで推移したものの、船用原動機の収益悪化が影響し、前年同期を下回る△5億円となりました。

中東向け石油化学プラント用プロセス機器

インフラ部門

前第2四半期 受注高: 158億円 ▶ 当第2四半期 136億円(22億円減)
 前第2四半期 売上高: 114億円 ▶ 当第2四半期 127億円(13億円増)

受注高は、ゼネコン、国土交通省、各地方自治体、電力会社等向けに、シールド掘進機や橋梁の新設・補修工事をはじめ、水門、煙突等を受注しましたが、大口工事が減少したことから、前年同期を下回る136億円となりました。

売上高は、橋梁、煙突等で工事が順調に進捗したこと等により、前年同期を上回る127億円となりました。

営業利益は、前年同期からわずかに減少し、△1億円となりました。

東京外かく環状道路大泉南工事向けシールド掘進機

※その他部門では、受注高60億円、売上高54億円、営業利益3億円となりました。

四半期連結損益計算書(要旨)

(2018年4月1日から2018年9月30日まで)

科目	金額(百万円)
売上高	153,243
売上原価	135,376
売上総利益	17,867
販売費及び一般管理費	26,363
営業損失	8,496
営業外収益	1,770
営業外費用	1,921
経常損失	8,647
税金等調整前四半期純損失	8,647
法人税等	△902
四半期純損失	7,745
非支配株主に帰属する四半期純損失	△62
親会社株主に帰属する四半期純損失	7,682

四半期連結キャッシュ・フロー計算書(要旨)

(2018年4月1日から2018年9月30日まで)

科目	金額(百万円)
I 営業活動によるキャッシュ・フロー	△22
II 投資活動によるキャッシュ・フロー	△4,158
III 財務活動によるキャッシュ・フロー	435
IV 現金及び現金同等物に係る換算差額	△385
V 現金及び現金同等物の増加減少額	△4,130
VI 現金及び現金同等物の期首残高	32,743
VII 現金及び現金同等物の期末残高	28,613

熊本高森線桑鶴大橋復旧工事の完工

桑鶴大橋は1995年に竣工した全長160mの斜張橋で、2016年4月に発生した熊本地震により主塔と橋桁をつなぐ吊ケーブルが損傷し、橋桁がずれる等の大きな被害を受けました。

復旧には吊ケーブルを交換する必要があり、国内で前例のない難易度の高い工事となりましたが、100年以上にわたり当社が培ってきた橋梁の設計・施工に関する技術・知見を活かし無事完工しました。

同地震で被災した熊本高森線大切畑大橋や御船甲佐線田口橋の復旧工事にも全力で取り組んでおり、被災地の1日も早い復興に向けて尽力してまいります。



復旧した桑鶴大橋

高速繊維ろ過装置「まりも®」を中国向けに受注

「まりも®」は、ポリエステル繊維を特殊加工した繊維ろ材を充填したろ過装置で、高速で汚水中の汚濁物質を除去することができます。

主に国内の下水処理場等で受注実績を重ねてきましたが、この度、水処理性能の高さと装置がコンパクトである点が評価され、初めて海外の下水処理場(中国広州市、処理能力10万m³/日)向けに受注しました。



まりもろ材



ろ過装置

株式の状況 (2018年9月30日現在)

発行可能株式総数	400,000,000株
発行済株式の総数	170,214,843株
株主数	80,776名
単元株式数	100株

大株主

株主名	持株数 (千株)	持株比率 (%)
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	12,891	7.6
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	10,522	6.2
株式会社三菱UFJ銀行	5,291	3.1
STATE STREET LONDON CARE OF STATE STREET BANK AND TRUST, BOSTON SSBTC A/C UK LONDON BRANCH CLIENTS- UNITED KINGDOM	4,741	2.8
DFA INTL SMALL CAP VALUE PORTFOLIO	3,348	2.0
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口9)	3,285	1.9
BNY GCM CLIENT ACCOUNT JPRD AC ISG (FE-AC)	3,267	1.9
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口5)	3,089	1.8
JP MORGAN CHASE BANK 385151	2,593	1.5
THE BANK OF NEW YORK 133972	2,501	1.5

(注)持株比率は自己株式数(1,668,219株)を控除して算出しております。

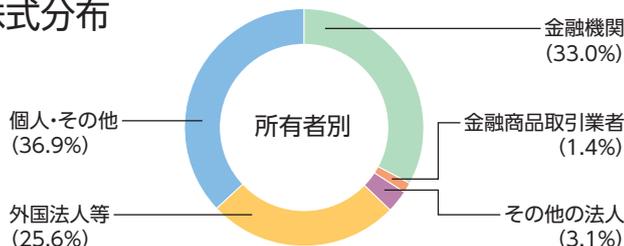
会社の概要 (2018年9月30日現在)

創業	明治14年(1881年)4月1日
資本金	45,442,365,005円
従業員数	4,113名(連結 10,747名)
ホームページアドレス	http://www.hitachizosen.co.jp/

株主メモ

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会開催日	6月下旬
同総会議決権行使株主確定日	3月31日
期末配当受領株主確定日	3月31日
中間配当受領株主確定日	9月30日
公告方法	電子公告(http://www.hitachizosen.co.jp/) ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合は、産経新聞に掲載します。
単元株式数	100株
株主名簿管理人 特別口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社
同連絡先	〒541-8502 大阪市中央区伏見町3丁目6番3号 三菱UFJ信託銀行株式会社 大阪証券代行部 電話 0120-094-777(通話料無料)
上場証券取引所	東京証券取引所

株式分布



表紙写真

Hitz先端情報技術センター(略称:A.I./TEC)

遠隔監視・運転支援機能の強化とIoT/ビッグデータ分析の基盤となる施設で、10月に竣工しました。

